

第2分科会 特別支援教育におけるキャリア教育の意義と展望

指定討論者 立教大学大学院 渡辺 三枝子

1 キャリア教育について再考

(1) キャリア教育導入の意味の確認

- ① 学校教育そのものの意味の問い直しと、**学校教育の現代的意味**の確認を行い、必要な教育課程の見直し、改善を**実行**に移すことが導入の意味
- ② 職業教育、就職支援だけを意味しないことの確認
- ③ 見直しの視点として、「キャリア発達の視点」を用いることが特徴
- ④ 目標は、学校教育が「**すべての児童生徒は、将来、社会の一員として生きる権利がある**」という理念を実行に移すため、基礎づくりを行うこと

No one left behind, education all

(2) キャリア教育について流布する誤解に気付くこと

- ① 誤解の原因： 「キャリア」の意味の誤解
- ② キャリア発達の視点の軽視：「発達」と「教育」との関係という原点を無視
- ③ 4能力領域8能力の表についての誤解
モデルとして提示された意味：能力・態度を発達的に育てることの意味を理解するためのもの
：outcome重視の意味
：児童生徒の現状観察のひとつの枠組み
- ④ キャリア教育のための科目を設けるという誤解：全教育活動で実施するための理念であることの確認が必要
- ⑤ 学校は「社会」であることを忘れている現状

2 初等中等教育における「キャリア」の意味と「キャリア発達の視点」の理解

(1) キャリアとは

個々人が働くこと(work)を築かれる個人の生き様であり、生涯にわたる働くことで得られる様々な体験の意味付け、価値付けの累積としての生き様のこと

「働く」とは職業だけではない、様々な役割を果たすこと、児童生徒にとっては「学ぶこと」も働くこと

キャリアは①「今」の持つ時間的・空間的価値を重視する概念が含まれる

②「個人が自分の体験を価値付け、意味付ける」結果としての人生とい

う意味から、「二人と同じキャリアはない」という**個別性**と、生き様は
個々人が決めるという**自己責任性**が内包されている

(2) キャリア発達の視点

- ① 自分のキャリア(生き様)を構築するための力や態度（今を最大限に生きる力、価値付け、社会人としての自立等）は、他の発達と他の側面と同様、全人的発達の側面であり、「教育」を通して発達させられるべきものであるという視点
- ② ひとつの環境(段階)から次の環境(段階)に**移行すること**の困難さと重要性に着目し、その角度から教育の役割を考え直す視点

3 キャリア教育の中核は、組織としての学校を運営する教師集団の協働

二つと同じ実践方法は存在しない：特別支援の課題は全学校の課題である

障害種別の課題の確認：障害別の特徴を客観的に認識することと、障害に対する社会環境の影響の払拭のための努力

教師集団はすべての児童生徒に影響を与えることの認識：

成功事例に見られる特長は、キャリア教育導入がきっかけとなって、教師間のコミュニケーション、情報交換、経験の共有、役割分担等が進む

4 提言

- * キャリア教育は、教育の重要性の再確認と我々教育のプロの自覚と役割の再検討の機会と提供している。
- * キャリア教育は、すべての児童生徒が社会の構成員となることの認識を深めて実践する事を求めている。
- * 「夢を持つ」「職場体験をする」等のキャリア教育の典型的活動の真の意味を問いなおして、実践しなおす必要があると思われる。
- * 「通常の授業」の意義の再確認を求める:授業は児童生徒とともに教師をも育てる。教育課程の見直しの中で、「教え方」「授業運営」についての見直しも必要ではないか。